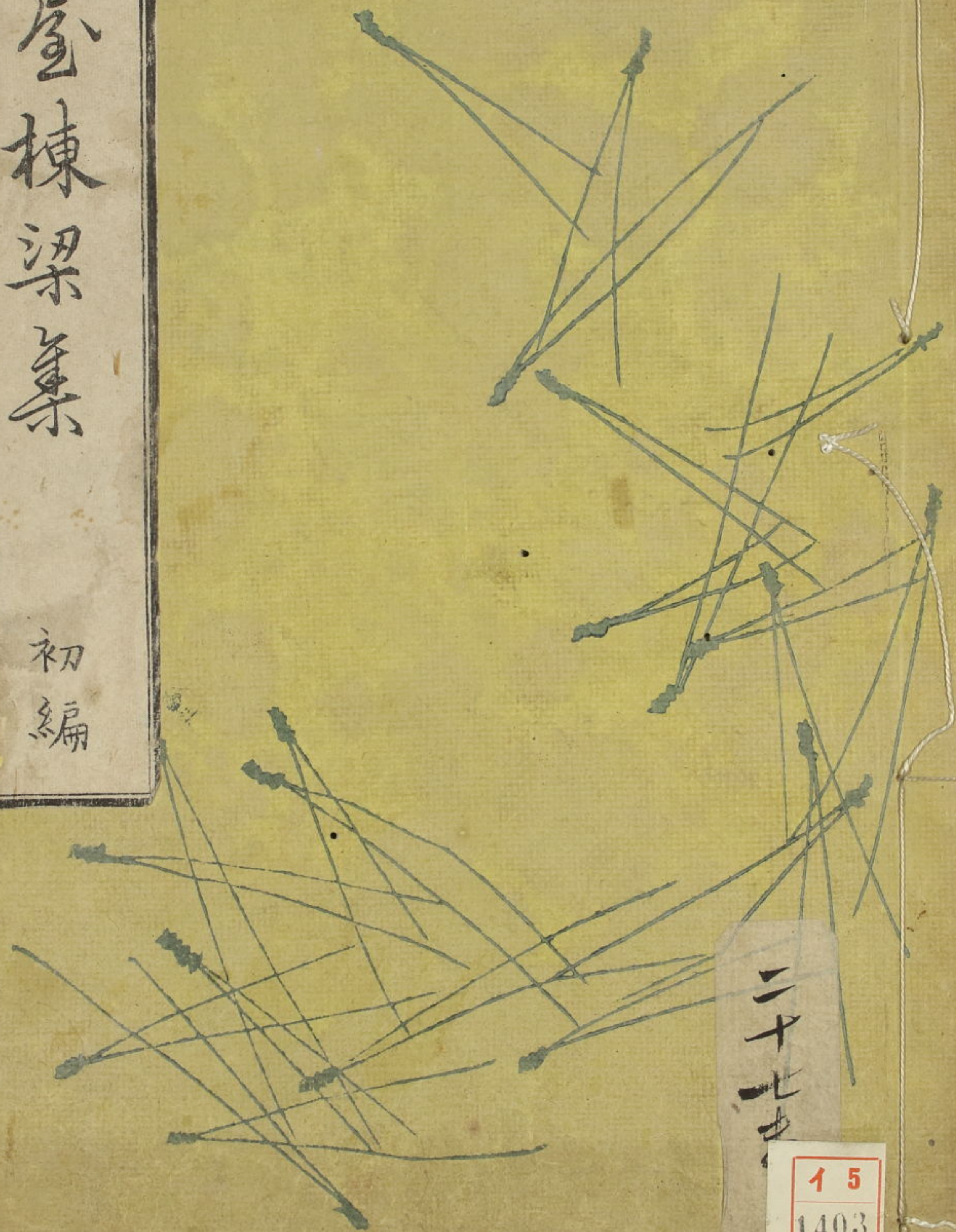




松屋棟梁集

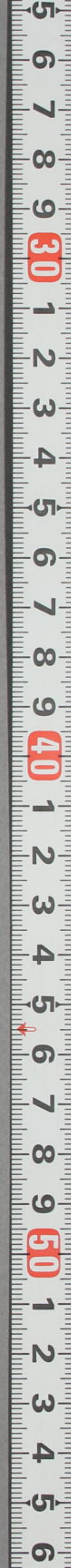
初編



二十七

15

1403



門 45
1403

擁書倉高田先生著

松屋棟梁集

初編

曬書堂藏板

明治廿四年三月廿八日
高田早苗氏藏



此集一文化十ある利三と考といふ年終六月
すうの目とやのあつる旨の海と母お好しむ川
はらちちう屋高田まーうやとていりやも松屋乃
ある一のやとわをそむくかこも中柱のうへを物
波もそこおろ何る一者こころるよとまこを城と
らそこらねみさうたそふのこあるを何しうとて
ゆりしおろむる手おき一とやわうへ一なるよ波
やうたぬ一の文集よけ母と松屋棟梁集と

及のぬらなまのいりて物可なり人々
 大に針と毛糸の如くはるる銭山志水
 此木陽の如くは満ちてるるは形なる
 ともかゝるる物と集りてその如く
 未だその如くは是れ書けり
 此の如くは板をりては文化と銭あり
 理三の如くはありては有りては日
 村田の如くは

松屋棟梁集卷第一

目録

○隅田河埋木文臺記

隅田河の名義

太井河

あはれ川といはは行

葛西郡下總に隸一或は武蔵に隸を

行囊抄のさし

隅田川の橋

長柄橋の文臺

文臺

○答赤松知則書

隅田河石濱橋の古圖
浮橋
富士川浮橋の古圖

關東關西

武藏坊辨慶

三關

坂東并關八州

山東

吾孀

兩京左京右京東京西京洛陽長安

○東都稱呼辨

四畿内五畿内
二監
七道

あづまの都

太宰府を西都といへる例

鎌倉を東都といへる例

むなの都

○復小谷三思書

富士山の名義
鳴澤

人穴
 富士の煙
 頼朝將軍富士野狩の古圖
 淺間神社
 吹と布と一言よひ例
 息を志といへる例
 風は洞穴よる生
 秀とりみ語釋
 國のまほま
 伊吹山
 富士郡

〇三社
 雷知神社
 知と志と音のかみ例
 託宣論
 甲陽軍鑑の沙汰
 三社託宣書法の圖
 倭論語の沙汰
 〇寄猿
 渡盛章書
 六所分配宮
 一宮二宮三宮四宮五宮
 總社
 名神明神

分配河原
御殿地
小山田の関
小山田氏が城蹟
石率都婆
小山田領并某領といふ
関戸川の古歌
多馬河
青渭神社
小六神社
蒲田神社

松屋棟梁集卷第一

東都

高田與清著

隅田河埋木文臺記

自注並圖ハも考證とて毎篇の後添りしと。今ほりゆりしとありんがとあり。文中にまづ注せ。

むさしに國々下總のらふと乃中にある河をさうと河と
古今和歌集 部 羈旅 伊勢 伊勢物語 今ほむらう。今昔物語舊本廿
なほに孔物語に見ゆ。八雲御抄 五の巻河原部 夫木抄 雜六の巻 松葉名所
集の巻 歌林名所考 卷五の 袖珍歌枕 卷七の 秋の寐覚 部 だどに
下總と注せ。ハ葛飴郡 義抄中の下巻 袖中抄 十六の巻 延喜民部式上 和
名抄國郡部 拾芥抄國郡部 節用集 活板本國郡部 新撰類聚往來國名部 だどに見ゆ
まゝ万葉仙覺抄五の巻十五の巻ハ太井河を境て西と葛西郡 東と葛東郡といひし

棟梁集

いすゞいしりありて。吾妻鏡一の巻。隅田宿見ゆ。まご廿五の巻。角田太郎と
もれ。名原。相模国。駿河。出羽。紀伊。など。そこには。河の

名なるは。更級日記。あは。河の

一字あり。支本抄。すだの河原も。あまの渡

とあり。四神地名録。葛飾郡。上隅田村。余の。王人。すま村。名は。河

隔。今。は。少。き。流。あり。何。の。村。人。も。古。隅。田。と。り。て。當。國。の。名。所。古。歌

あり。隅田川の實跡。江戸。砂。子。や。荒。川。を。隅。田。川。と。記。せ。り。隅。田。村。は。ひ。て。流

見。る。古。隅。田。實。跡。は。今。も。里。人。は。須。田。村。と。い。ふ。古。隅。田。川。乃。説。は

わん。義経記。ゆ。すん。と。書。り。義経記。評。判。改。で。す。み。と。書。れ。と。寛

文。板。元。祿。板。と。い。ふ。か。と。は。す。み。と。も。ひ。ん。と。も。あ。ま。と。も。い。ふ

或。は。か。と。い。ふ。或。は。か。と。い。ふ。大。と。は。あ。ま。と。い。ふ。れ。か。と。い。ふ

むふなんありける。吾妻鏡一の巻。むざい。かふの人。昔

西の六郎。平家物語。長門本。十二の巻。おれ。國人。の。三郎。あま

の。り。の。お。は。その。住。所。の。名。を。族。稱。し。せ。り。は。は。

昔。西。の。こ。ほ。り。を。武。藏。の。管。り。あ。り。て。い。は。る。建。保

名。所。百。首。歌。枕。名。寄。武。藏。部。新。撰。歌。枕。名。寄。武。藏。部。机。右。抄。

十三の巻。歌枕玉叢抄。東海部。角田川。謡詞。表。百。番。差。職。あ。ま

ゆ。と。あ。ま。川。と。武。藏。部。名。所。と。せ。は。建。保。の。頃。の。を

後。こ。ほ。り。の。川。も。む。ざ。い。の。ら。あ。は。隸。多。る。源。平。盛。衰

記。廿三の巻。平家物語。長門本。隅田川はむざいと下總乃境

や。い。へ。る。古。今。集。や。伊。勢。物。語。の。よ。も。あ。ま。と。は。の。の。さ。わ

かきばらるる。勅撰名所和歌抄出。活板本上巻河部名所方角抄。武蔵

の条。此書宗祇の撰。増補方角抄と云ふも三巻あり。梅若権現の縁起

名依託せしめり。六の上巻。美濃国野上の条。此縁起と引たり。行囊抄七部百十一冊。西遊行囊抄海上行

囊抄。紫遊行囊抄。東遊行囊抄。南遊行囊抄。越遊行囊抄。神風行囊抄。名と別て。自

飛驒国をうつ。飛驒国をうつ。二國は涉りたり。さそびと云ふは。この下總

に之と云ふは。北國紀行。あづまぢの叢河越記な

と云ふ。本朝通記後編世四の巻。永祿六年正月の条。北條氏康。與里見義弘。弘田

後。今乃おとく武蔵の郡。定らる。貞享元祿乃

問答。林諸鳥が建。研文を載て。貞享三年丙寅春。龜戸の善應寺に

鐘のふと。江戸志十の巻。載て。武州葛飾郡龜戸郷。中田氏が家に

水帳のふと。本所表町の名主。中田氏が所蔵の水帳。武蔵国

下總中。乃ハ武蔵。その後。も下總。今ハむさし。此名

どころ也。木母寺乃鐘のふと。武蔵のふと。乃豊嶋

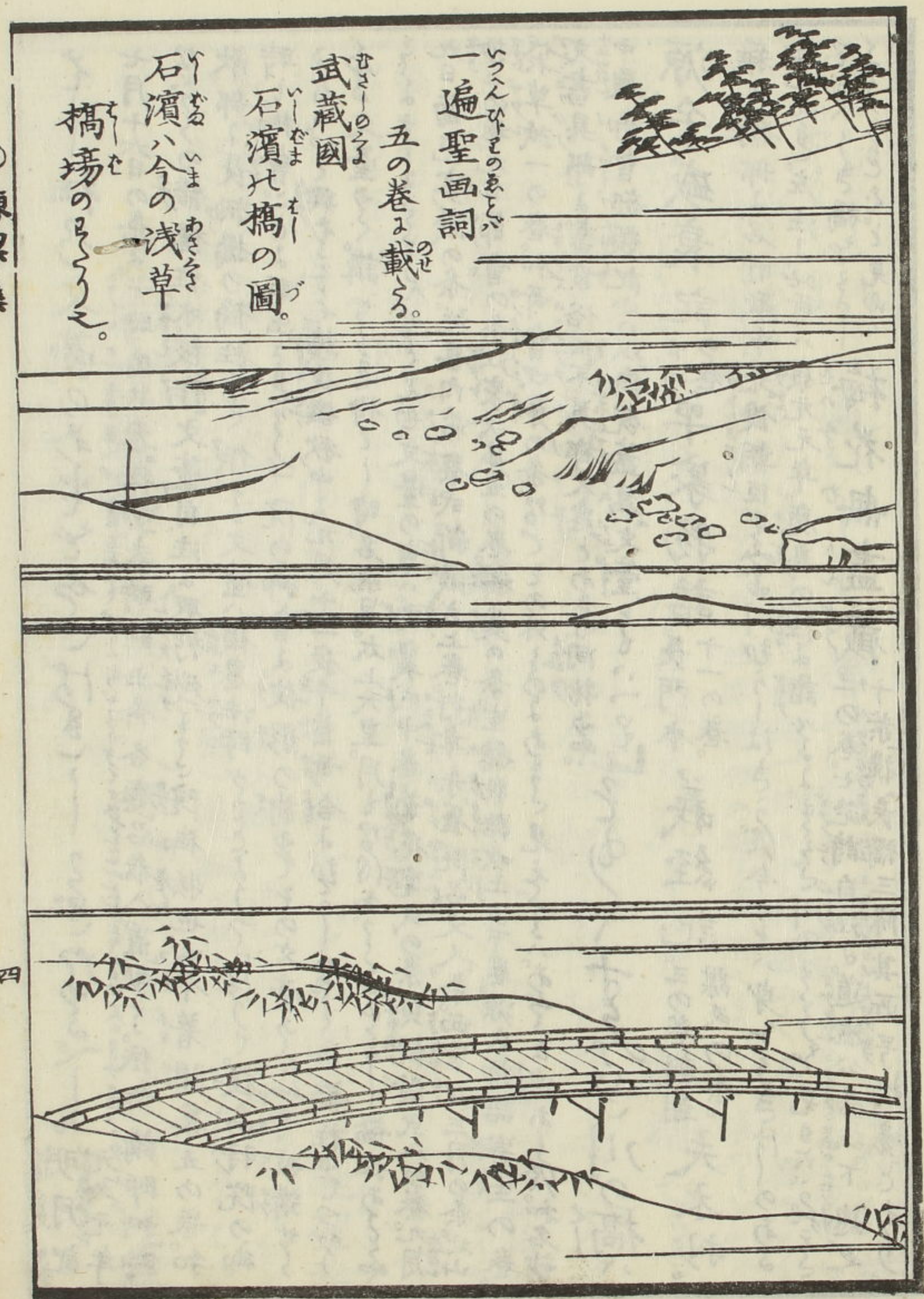
のこほ。此隅田川とある。いりり。延宝五年九月。鐘銘に

武州豊島郡隅田川梅柳山木母寺と見ゆ。葛飾郡とある。葛飾郡とある。心得印りやある

葛西本所。乃武蔵。乃豊嶋郡。乃管。乃心。乃得。乃印。乃り。乃や。乃ある

水底。乃五本。乃り。乃か。乃の。乃ある。乃木。乃と。乃文。乃臺

はく。乃と。乃輪。乃池。乃屋。乃代。乃翁。乃め。乃れ。乃り。乃あ。乃し。乃や。乃この。乃か。乃



いづみひらのあたりに
 一遍聖画詞
 五の巻に載る。
 武蔵國
 石濱比橋の圖
 石濱ハ今の浅草
 橋場の見ゆま。

○棟梁集

四



高島千春縮写



一遍聖画詞

六の巻に載る。

駿河國富士川

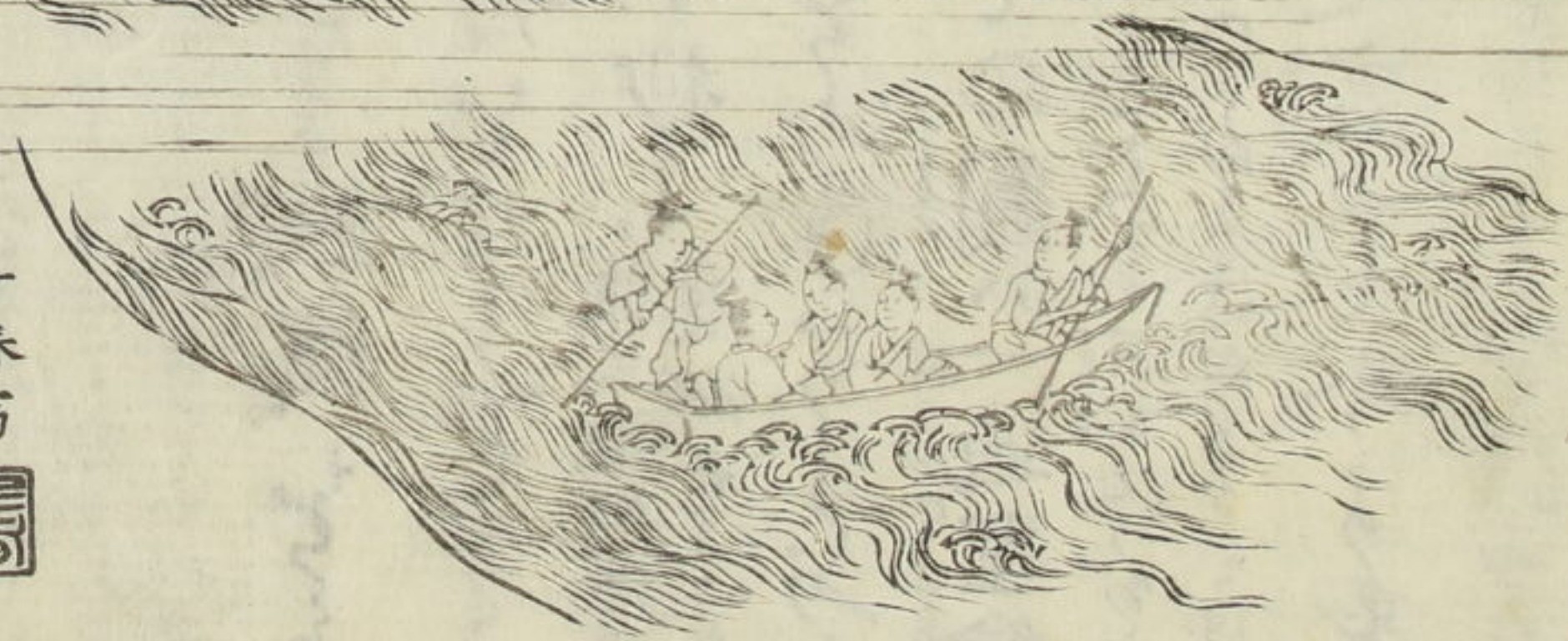
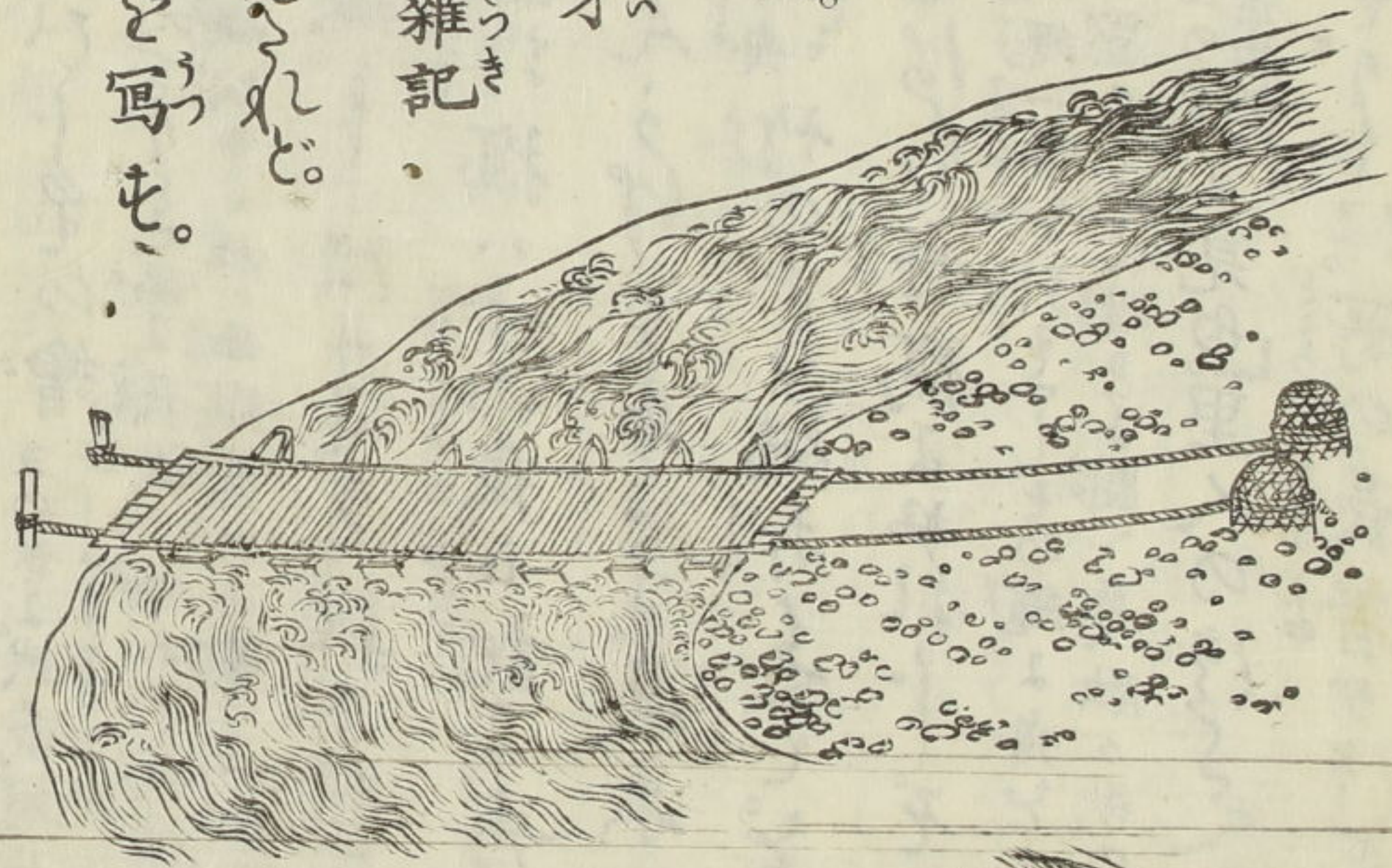
浮橋の圖

浮橋の圖ハ倭濛三才

圖會卅四の巻東遊雜記

十の巻なごやのんえんれど

今いづるきを写す



千春写



土橋浮橋ともよ和名抄道路具部に見ゆ

享保年間おほやけより

船橋とまうけ

らまゝ一とよとあまといへばわが文臺よせは
いづこの時此橋なるの名なりやあまこれの
まゝしとよとあまといへばわが文臺よせは
さる。翁のみわびご孫乃かりをいしとよとあまといへば
ゆりつとよとあまといへばわが文臺よせは
日あづきとよとあまといへばわが文臺よせは
ま。高田与清筆とまうけ
答赤松知則書

別與秀衡議亡平氏之事為冠六波羅形勢承元年復登各辨慶聞義經有興廢
之志進為後者為第一即等而最回軍忠其智勇人以稱之披辨慶之義經一名
港曹紀州田邊雜圖權現別當也諺云抄安宅の卷に弁慶熊野別當辨心子盛
塚物語三の卷武藏坊弁慶借狀の条に弁慶が姿をゆゑりてのせく繪よわさ
るゝ大まあるひがて見えり右の反故の中は弁慶を美僧とての事あり其世
の僧共の文あり拾別十の事懐橘談上卷出雲國島根郡枕木の条に枕木山は
智元和尚の開山天台止觀の月を燈し藥師の像を安置せり云云侍僧の語けり
源家の倍臣武藏坊弁慶は枕木の里あり生れ當山の兒なり時同寮の兒を良
ももてハ打擲し侍りやどと院主折檻のころあゝの島へ流し給ふさるる弁慶石を
拾あつめ陸へゆき道と造るそぐく山へつるやうよ今に至りて弁慶島と申あり侍
永見と云里に弁慶が産水弁慶が女の墳墓も今も存せり父ハ意守郡熊野の山
人之天照太神生れ給ふ時の産水も此山あり弁慶曉毎に此水と汲るは弁慶の
水も申あり侍り水を守護せり妙見星なりとありさるる事あり
舞の草紙諺の詞斐埃隨筆安齋隨筆新撰天竺波集弁慶物語山城名勝志
癩州府志東遊雜記四季草與羽觀迹聞老志行囊抄の類は散見しその
外諸書は頭よりハ枚舉しごとく南留別志二の卷に弁慶ハ滑誓の男とあり坊と
つゝいふこと弁の字とていふ所ありあふりいふことあり元亨
釋書十三の卷泉涌寺後務傳は建久六年在筒嶽正法寺味木縣人辨慶愛
入山寺と見えハ武藏

解西三十三箇國と書ありハ畿内國と

ちふけるあや九關西とは須磨乃關あり彼方關中
ちち畿内國といへとも相解し三關の國より東と
みれ關東ともいへば三關ハ伊勢の鈴鹿美濃
此不破越前の愛発なり續日本紀廿六の卷
元年三月丙申の条に伊勢美濃越前者是守關之國也四十の卷延曆八年
四月し酒の条に伊勢美濃等關例上下飛驒函關司必開見同七月甲寅
の条に勅伊勢美濃越前等曰置關之設今の義解國又掌關刻
本備非常と見え十の卷廿五の卷三關の義解國又掌關刻
及関擊事軍防令よ其三関者設鼓吹軍器國司今當守國義解伊勢鈴鹿
美濃不破越前愛發等是也公式令凡諸國給鈴者太宰府一十口三関及陸
奥國各四口大上國三口中下國二口
其三関國各給關契二枚と見えハ相解トも集解六の卷職貢令六れと
見え後近江の相坂を建らしめてあり日本記畧延曆十四年
八月己卯の条に廢近
江國相坂刻抄書大同五年九月丁未の条に鎮固伊勢近江美濃等三國府並
故関文德實錄九の卷天安元年四月庚寅の条に始置近江國相坂大石龍華等

○棟梁集

くまへせーが世にうるべしと。いそぐしきしき
あつらんかくなん。打あく秋風身よきみく。なほ
しき此らほを。たひくうのそぶして。あれしこ。
長月のそつなぬる。出。

東都稱呼辨

少ありなくあつる。れみゆこと。いれ稱は江戸名
所記。五の卷。芝泉岳寺の条。つりつと。淀鳥羽。車借ありて。都あり
なる。土橋。校稿のうへと。心のまよひくと。見ゆ。此書。浅井。下。雲。撰
中。寛文二年五月の刊本。了。雲。治元年。東海道名所記。を。後
此書。と。撰。東海道名所記。か。ま。つ。北。禪。興。寺。の。鐘。乃
新編。鎌倉志の引用書目。載。か。ま。つ。北。禪。興。寺。の。鐘。乃
あ。と。の。り。鎌倉志三の卷。禪興寺鐘銘。寛文改元。辛丑。歳。東都
豪貴。内藤。佩。帯。内。助。上。杉。氏。と。あり。此。銘。八。天。和。二。年。皐。月。

南禪寺見僧録司。などよ出て。るく寛文とよ。の頃よ
剛室崇寛の撰。

抑も。の。し。き。り。こと。は。古。事。談。五の卷。神社
の詩。太平記。十二の卷。天。北野縁起。下。天満宮託宣記。四年

十一月十日。梅城録。空華集。廿の卷。祭。筑前國續風土記。の卷。
六日の条。太宰府と西都といひ。空華集。九の卷。寄。題。北野

都。北。夢。境。一。覽。亭。の。詩。鎌倉志二の卷。載。嘉。曆。年。中。慈。恩。寺
と見ゆ。客至。曾。誇。絶。境。殊。慈。恩。山。水。冠。東。都。と。い。つ。な。と。よ。鎌。倉。と

東都といひ。萬葉集。十八の卷。中。守。大。伴。家。持。宿。禰。坂。上。即。女。小
度。之。可。久。古。非。浪。良。波。伊。家。流。思。留。事。安。里。と。見。ゆ。橋。千。蔭。略。解。本。居。宣。長

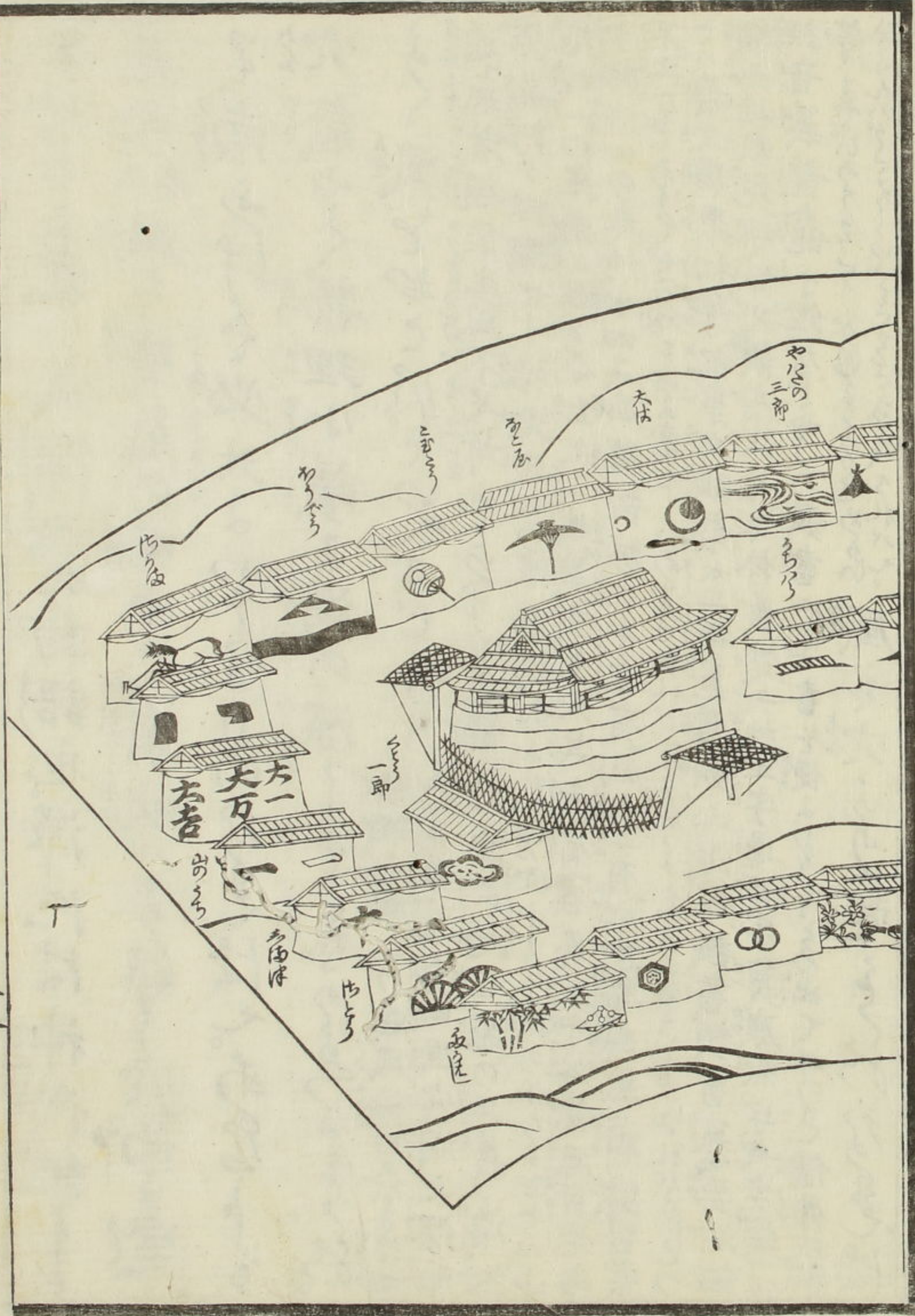
云。大。平。が。説。は。都。夜。談。ハ。夜。都。故。を。誤。る。と。い。つ。り。あ。る。と。い。つ。り。國。府。と



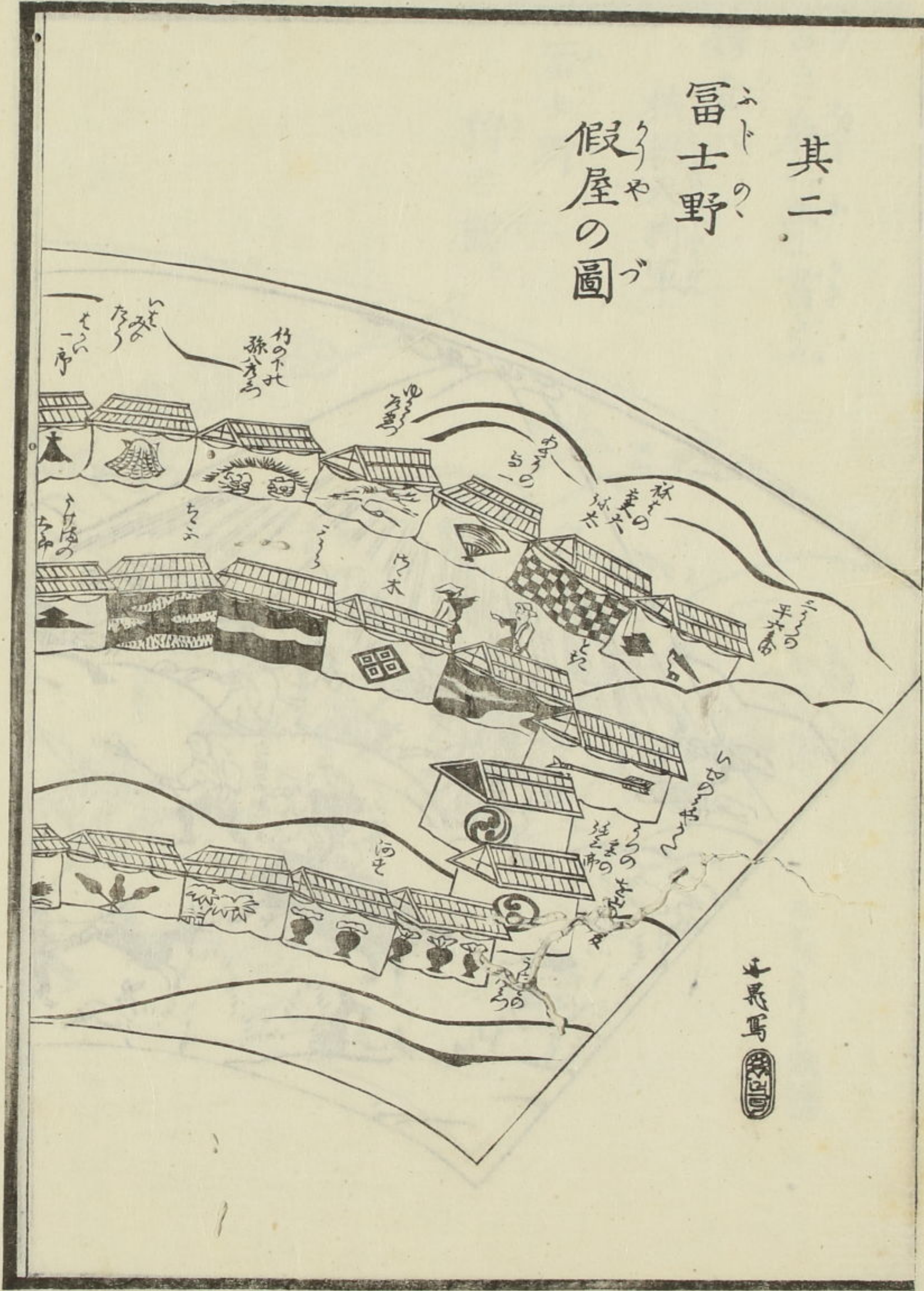
古き扇の画は書ふる。
鎌倉此
頼朝大將軍
富士野
狩の圖。



其景を写す



其二
富士野の
假屋の圖



せううぐもしく。氣息を志といふ。志るべし。
 かまは富士は吹息穴に語をいふに。
 伊吹山といふも。近江なる山神の息吹かせに
 よる。下野なる煙乃出るによる名ゆきまこ
 くあまとおたつ。あろをふと。あつたの山
 あまは郡の名もいでき。ありんを郡にされる
 山の名どといふ。たつ。たつ。たつ。富士山
 古老傳云。山名富士。取郡名也。見え。本朝神社考中之
 四巻引。富士縁起。神中抄七の巻。なごの。さく。北山よ
 鎮座神は。神名帳。延喜式九の巻。駿河。富士郡。乃。条。富士神社。知と
 通音。應神紀の歌。誰が。遠。富士郡。乃。条。阿多佐例。阿羅智之。万葉集
 世の巻。天地と阿米都之。乃。以。都。乃。可。美。乎。阿米都之。乃。可。未。尔。奴。佐。

於伎手より持を。五爾。カ。里。母。之。豆。など。例。い。お。得。う。と。此。富士神社。延喜式。の。古
 寫本。又。大。八。洲。記。六。の。卷。駿。河。國。富。士。郡。の。条。二。式。を。引。る。な。ど。也。富。士。と。書。今。昔。物
 語。舊。本。十。七。の。卷。第。十。一。語。富。士。宮。も。あ。り。バ。式。の。印。本。二。種。と。神。名。帳。の。印。本。外
 富。知。よ。は。ら。さ。る。ハ。草。書。な。り。ひ。か。め。久。あ。る。つ。な。諸。社。根。元。記。富。士。式。外
 延。喜。七。五。二。駿。河。國。富。士。明。神。三。位。と。あ。る。せ。一。は。式。富。知。と。見。え。る。と。富。士。列。記
 取。り。ま。あ。し。淺。間。神。社。と。の。淺。間。神。社。ハ。木。華。開
 耶。姬。神。子。御。靈。な。る。と。志。る。せ。い。の。招。ひ。あ。り。
 神社考中之四卷。神啓蒙の卷。駿河國志四の卷。七の卷。再遊紀行北條九代
 記六の卷。富士淺間神遷宮の条。東海道名所記一の卷。二の卷。丙辰紀行三島の
 条。大日本一宮記。因花乃葉記。八の卷。後漢三才圖會五十六の卷。六十九の卷。一宮
 巡詣記六の卷。なご。見。下。學。集。地。門。富。士。者。此。山。之。神。女。賂。と。い。つ。り。
 富知神社は。富知。改。て。富。士。と。作。べき。と。出。雲。なる。が。大。穴。持。の
 神。中。ま。せ。を。さ。し。と。お。た。つ。と。く。ら。ん。の。招。ひ。あ。り。
 くらさる。あつた。か。あ。く。く。あ。て。よ。く

寄猿渡盛章書

とがしむもせしむ。何れとあはれは
まにたあけあるさぬふのこもてをねは
はらへきさあふさつらひひ
るもあはれ中ふおさひもさ
えまあねしむ。むさし
空華集 依田氏が空華集五の巻
社傳記 猿渡盛房 附録府中故事の巻
中むのしむ。ありあはれしむ。むさし
吾妻鏡二の巻 武藏六所宮 廿八の巻 須永元年二月廿四日 武藏國六所
宮拜殿破壊有修造之儀 武藤左衛門尉資頼奉行之源平盛衰記廿三の

卷源氏隅田河原取陣条は佐殿ハイト、功付給テ先當國六所大明神ニ御參詣アリテ
神馬ヲ引上夫ヲ奉ラレタリ。長門本平家物語十一の巻は兵衛佐ハ先當國六所の大
武藏野地名考武藏演路多摩 近頃のさし小野神社とも。武藏野 地名考
郡部山吹日記上巻なるとある。 武藏國とや。さしの
六所宮のいさむをひびのて馬揃のさし。 武藏國とや。さしの
条のの。いさむをひびのて馬揃のさし。 武藏國とや。さしの
宮の前や。身さし。 未来記の草紙 頼朝主従七騎あきむさしの國へ
つてをさし。さし。 六所分配宮とあるよさし。さしの國内
ちをさし。さし。 六所分配宮とあるよさし。さしの國内
さし。さし。 六所分配宮とあるよさし。さしの國内
あはれ一宮二宮三宮四宮のさし。 吾妻鏡よ。あはれ一宮二宮三宮四宮の
社佛寺奉神馬条。一宮佐河大明神。二宮河勾大明神。三宮冠大明神。四宮前
取大明神。安齋隨筆前集八の巻五十三則は淡路常盤草卷四伊左奈岐
神社の条は。按さし。一の宮と云ひ異説あり。崇神天皇の置さし。天社社を
一宮といひ。垂仁天皇の置さし。國社を二の宮と云ひ。あはれ天社社を一宮といひ。地社社を

文苑方儀

古事記日本紀萬葉より後の真假名子書なる
書の名所の歌にも景物をよみあはせと一首づつ
地名のあり所の国郡までをよみくわされし書也

續文苑方儀

廿一代集の名所をよみされし書也

後文苑方儀

私撰家集ホの歌名寄也

續後文苑方儀

物語紀行日記合戦の書の類の名寄也

空穂物語階梯 全三卷

空穂物語の詞をわつりて源語梯のさまに
注釋せしむる書也

正木千幹大人著

榮花物語階梯 全三卷

榮花物語の詞の注釈と源語梯のさまに
書とくわり

文化十三年丙子仲冬

萬笈堂
曬書堂

